

新宿区各エリアの特徴

四谷	
時代背景、特徴など	・明治時代は江戸時代からの旅籠屋、茶屋、料亭が残る。鉄道の延伸、都電の開通により多数の駅が開業。 ・昭和初期は花街としてにぎわう。 ・昭和 39 年にオリンピック東京大会が開催される。
主な事業所 (創業年、移転年)	大塚刷毛製造（大正 3）、丸正商事チェーン（大正 8）、慶應義塾大学病院（大正 9）、トモエ算盤（大正 9）、東京リボン（大正 10）、川辺（大正 12）、東京堂（昭和 1）、錦松梅（昭和 7）
昼間人口：62,221 人　／夜間人口：28,859 人　／昼夜間人口比率：215.6%	

市ヶ谷・神楽坂	
時代背景、特徴など	・明治 8 年に尾張徳川家上屋敷跡（現防衛省）に陸軍士官学校開設。 ・明治 19 年、市谷加賀町に秀英社（現大日本印刷）が印刷工場を開設。昭和 30 年代には印刷、製本関係の工場が集積。 ・神楽坂は江戸時代から町屋としてにぎわい、幕末頃から花街となる。明治時代には東京で初めて夜店がたつ。鉄道の開通、軍施設や軍人宅が多かったことから花柳界が大きく発展。
主な事業所 (創業年、移転年)	大日本印刷（明治 19）、新潮社（明治 29）、ゼブラ（明治 30）、旺文社（昭和 6）、偕成社（昭和 11）、音楽之友社（昭和 16）、トーハン（昭和 24）
昼間人口：97,716 人　／夜間人口：45,495 人　／昼夜間人口比率：214.8%	

高田馬場・早稲田・大久保	
時代背景、特徴など	・明治 6 年に尾張徳川家下屋敷（現戸山公園等）に陸軍兵学寮戸山出張所が開設。 ・明治 15 年、東京専門学校（現早稲田大学）が創立。飲食店、古本屋、下宿屋などが増加。 ・明治後期から大正にかけて田畑の宅地化が進む。 ・昭和 20 年代、「戸山ハイツ」「戸山アパート」建設される。 ・戦後、大久保は音楽家が多く住み、「音楽の町」「楽器の町」として知られる。昭和 50 年代以降は、韓国・中国・フィリピン・タイなど周辺アジア諸国関連の店舗や留学生向けのアパート・日本語学校などが増加。
主な事業所 (創業年、移転年)	龍生堂本店（昭和 8）、カワダ（昭和 27）、グリーンキャブ（昭和 27）、ビームス（昭和 28）、ヨドバシカメラ（昭和 35）
昼間人口：204,061 人　／夜間人口：146,946 人　／昼夜間人口比率：138.9%	

落合	
時代背景、特徴など	- 江戸時代は、市民の散策地であり蛍狩りの名所であった。明治に入り、宅地開発が進む。 - 大正から昭和にかけて、神田川・妙正寺川周辺で、染色や紙漉きなどの手工業が発達。
主な事業所 (創業年、移転年)	聖母病院（昭和 6）、シミズオクト（昭和 9）、エステー（昭和 21）、アリミノ（昭和 21）、関水金属（昭和 32）
昼間人口：42,284 人　／夜間人口：63,086 人　／昼夜間人口比率：67.0%	

新宿駅・歌舞伎町	
時代背景、特徴など	- 明治 18 年に開業した新宿駅は、私鉄各線が乗り入れ、市電・市バスの整備などによりターミナルとして発展。昭和 6 年、日本一の利用乗降客数となり、駅周辺に百貨店・映画館などが進出。 - 昭和 30 年代、映画・演劇の拠点として戦前以上の活気を見せ、人の交流や憩いの場として喫茶店が人気を集める。 - 昭和 45 年、歩行者天国がスタート、多くの人でにぎわう。 - 平成 20 年、昭和 31 年に開場した新宿コマ劇場が閉鎖、27 年には跡地にシネマコンプレックス・ホテルが開業予定。
主な事業所 (創業年、移転年)	新宿高野（明治 18）、新宿中村屋（明治 34）、新宿武蔵野館（大正 9）、紀伊國屋書店（昭和 2）、オカダヤ（昭和 2）、三越新宿店（昭和 5）、花園饅頭本店（昭和 5）、新宿伊勢丹（昭和 8）、世界堂（昭和 15）
昼間人口：108,774 人　／夜間人口：20,644 人　／昼夜間人口比率：526.9%	

西新宿・角筈	
時代背景、特徴など	- 江戸後期から大正にかけて、「十二社池」が行楽地としてにぎわう。明治以降は料亭や茶屋が軒を連ね、屋形船や釣り、花火などの娯楽も行われた。 - 明治 25 年、淀橋浄水場が建設される。昭和 40 年に廃止され跡地は副都心計画用地となる。昭和 45 年、最初の高層ビル「京王プラザホテル」が竣工、以後超高層オフィス街へと変貌を遂げる。
主な事業所 (創業年、移転年)	小田急電鉄（大正 12）、東京医科大学病院（昭和 6）、小田急百貨店（昭和 31）、京王百貨店（昭和 39）
昼間人口：235,063 人　／夜間人口：21,279 人　／昼夜間人口比率：1,104.7%	